

編集後記

第29回断層映像研究会大会のプログラム、抄録を掲載することが出来た。今年は通常と若干異なる形式になったため、関係各位にお詫びすると共に、ご協力に心より感謝申し上げます。また、参加される皆様にはMDCTばかりでなく、是非秋の熊本も楽しんで頂きたいと節に願っている。

さて、携帯電話に纏わる話を一つ紹介したい。最近の携帯電話の普及は驚くばかりである。研修医時代を沖縄の救急病院で過ごした私などはポケットベルですら何時爆発するか判らない爆弾を持っているように思っていた。まして、携帯電話などいつ何時でも何処にいても病院に拘束されそうで、便利さよりも自分のプライベートを失ってしまうという恐怖の方を先に考えてしまう。しかし、最近のは発信場所を確認して、都合の悪いのには出ない事も出来るという。ただただ技術の進歩には驚くばかりである。

今年のECR(European Congress of Radiology)での話、日本同様、ヨーロッパでも携帯電話はよく普及している。学会場でも至る所で、携帯を使って電話している姿を目にしたが、日本なら発表会場内では電源を切るか、マナーモードにするか位はするはずである。ところがあるセッションで突然会場内で電話が鳴りだし、私の前の方に座っている会場の人が話し始めたのだ。特別、声を小さくするわけではなく、普通にしゃべっていた。マナーが悪いなあと思っていると、また、別の電話が鳴り始めた。一体誰だろうと思っていると、なんと今度は座長の電話だった。演者はそのまま発表中なのに座長がその電話に出て、“今、座長をやっている最中なので、後でこちらから電話するから。うん、判った、判った、。エッ、アー、あの店はうまかったなあ。”という様な多分意味だろうと推察したが、フランス語で話したのだ。皆さん、会場ではマナーモードをお忘れ無く。

熊本大学放射線科 荒川昭彦

断層映像研究会雑誌

第27巻第3号 (断層撮影法研究会雑誌より通巻)

2000年9月1日 印刷

2000年9月30日 発行

発行人 田中良明

編集委員長 町田喜久雄

発行所 断層映像研究会

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1

日本大学医学部放射線医学教室内

定 価 2,000円